

中長期目標 (学校ビジョン)	さまざまな教育活動を通して、21世紀の鳥取そして日本を支える人材の育成に努める。	今年度の 重点目標	「しのめプロジェクト」の推進 1 学力向上のための教科指導の充実と授業力向上 2 人間力の育成 3 生徒指導の徹底と健康・安全管理の充実
-------------------	--	--------------	---

年 度 当 初					評 価 結 果 ()月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 学力向上のための教科指導の充実と授業力向上	①自宅学習時間並びに学習の質を確保する。	○生徒の授業に対する満足度は高い。 ○ほぼ全生徒が家庭学習の必要性を感じているものの、計画的に家庭学習に取り組んでいるのは50%強。	○生徒個々が自分なりの学習習慣と学習法をつかむ。 ○家庭学習を毎日計画的に行っている生徒が70%以上。	○1・2年生に対し、予復習の課題を徹底する(具体的且つ明確に周知)。 ○スタディサポートや自宅学習時間調査を活用し、生徒一人一人の学習実態に応じた有効な指導を行う。 ○意欲喚起につながる面談を実施する。			
	②各教科ごとに学力実態を把握・分析した上で、学力向上プログラムを作成し、授業の質を高める。	○大学入試センター試験や二次試験の研究と対策を進め、新課程に対応した指導学習の充実を図りつつある。	○学力層に応じた適切な教科指導により学力向上が図られる。 ○全国模試で校内平均点偏差値が、1・2年生は55を、3年生は50を上回る。				
2 人間力の育成	③高い志を持ち、自己の将来像を設計し、実現に向けて努力する力を育成する。自他を大切にし、自己のあり方・生き方を模索する機会として、キャリア教育の充実・ボランティア活動参加を推進する。	○学校生活全般において総じて待ちの姿勢の傾向がある。 ○社会との関わりを自覚的に考えて行動したり、自らの将来像を意識したりして、早期からの自立した学習へ取組ができていない。 ○学習と部活動をうまく両立させていると感じている部加入生徒(1・2年)が平成25年度末 51%。	○1年:進路目標を持ち、進路実現のために必要な学習内容・学習方法がわかる生徒が60%以上。 2年:職業や大学等の具体的な進路目標を持ち、大学(学部・学科)の教育内容や入試制度がわかる生徒が75%以上。 3年:適性に応じた進路目標を設定でき、進路実現のための必要な学力を理解し、身につけようとしている。 ○学校全体として地域等への貢献活動に取り組む。	○LHRや「総合的な学習の時間」を活用した進路プログラムにより、進路意識の向上を図る。 ○「鳥取学」、各種講演会など、校内外の教育力を活用し、生徒が高い志を持ち、将来像を描けるよう指導する。 ○ボランティア募集を広く案内し、参加しやすい環境を整える。			
	④文武両道を基本とした教育活動の推進。		○学習と部活動をうまく両立させていると感じる生徒が70%以上。	○計画的な家庭学習が確保できるように、効率的な部活指導を展開する。			
3 生徒指導の徹底と健康・安全管理の充実	⑤規範意識を持ち、健康・安全に関する自己管理のできる生徒の育成。	○不登校傾向の生徒が学年に数人いる。 ○時間管理が不十分な面があり、提出物が遅れたり、睡眠不足で体調不良になったりする生徒がいる。 ○自転車マナーについて、市民から指摘を受けることがある。登下校時の自転車による接触事故が十数件ある。	○継続または連続して年間30日以上欠席する生徒の減少。 ○スマートフォン等でのインターネットの使い方を含め、各家庭における生活習慣(起床時間、帰宅時間、自宅学習開始時間、就寝時間等)を改善しようとする姿勢が見られる。 ○自転車マナー向上と登下校時の事故減少。	○hyper-QUやいじめアンケート等を活用して生徒の状況を的確に把握し、早期の対応を行う。 ○宅習時間調査・生活習慣チェックシート・各種講演会等を効果的に活用する。 ○年間を通した、定期・随時の登下校時の交通安全指導を行う。			

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：まだ不十分 E：目標・方策の見直し
〔100%〕 〔80%程度〕 〔60%程度〕 〔40%程度〕 〔30%以下〕